



学校だより

伸びゆく子

令和4年4月28日
横浜市立中沢小学校
5月号

「マムシグサ」と「ウラシマソウ」

学校長 川又美貴子

新年度が始まり、1か月が過ぎようとしています。今年は、家庭訪問や授業参観・懇談会も3年ぶりに実施することができ、それぞれ短い時間ではありますが、子どもたちの姿を見ていただいたり、ご家庭での様子を聞かせていただいたりと、貴重な時間となりました。保護者の皆様におかれましては、ご多用の中、ご理解ご協力いただき、ありがとうございました。

先日、下校指導に向かう途中、正門前に咲く珍しい花を見ていました。「マムシグサ」という、茎の模様がマムシの斑模様に似ていることから名づけられた花かもしれない、と地域の方と話していた植物です。そこへ、また別の地域の方がいらしたので、お声かけしてその珍しい花が咲いていることを紹介しました。一緒に見ていると、「花の形は似ているけれど、これは『ウラシマソウ』だね。細いひも状のものが伸びている様子が、浦島太郎が釣り糸を垂らしている姿に似ていることから名づけられているのですよ。」と教えていただきました。新しい発見に感動していると、6年生の児童が集まってきて、興味深くその方のお話に耳を傾けながら花の様子を見ていました。花や葉の形、茎やつるの様子などを注意深く見ることで、その植物独自の特徴を見つけ、分類することができるのだな、と新ためて観察の大切さを感じました。



花が咲き、芽を出した植物がぐんぐん成長する春真っ盛りの今、様々な学年の児童が iPad を片手に、植物の様子を写真に撮りながら観察しています。写真に撮ることで、教室でもじっくり観察したり、詳しく見たいところを拡大して見たりできるようになりました。しかも、1人1台の端末は自分専用です。学習の可能性は大きく広がりました。しかし一方で、写真を撮ったことでそのものを捉えた気になってはいけません。私や6年生の児童が、地域の方と一緒にじっくりその特徴を見たように、自分の目で見て、においをかぎ、手触りを確かめ、大きさや質感を体感する、そうした五感をフルに使った観察をすることが、様々な感覚や感性を育む上でとても大切になるのです。便利さだけに偏ることなく、小学生の時にしか育むことのできない様々な力を、バランスよく身につけていかなければなりません。

今年度中沢小では、文部科学省のデジタル教科書実証事業として、5・6年生に英語と国語のデジタル教科書が無償給与されます。いつ、どこで、どんな力を育むために、活用すべきはデジタルなのか、アナログなのかを見極めながら、GIGAスクール構想2年目をしっかり進めていきたいと思ひます。